

福 議 委 号
平成 27 年 11 月 日

福島町議会議長 溝 部 幸 基 様

経済福祉常任委員会
委員長 熊 野 茂 夫

所管事務調査報告書の提出について

本委員会は、福島町議会定例会 9 月第 2 回会議（平成 27 年 9 月 18 日）において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第 147 条の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

調査事件	(1) 所管関係施設・事業等の町内視察について (2) 行政評価（事務事業評価）について	
調査期間	平成 27 年 10 月 30 日（1 日間）	
出席委員	調査事件（1）	調査事件（2）
	委員長 熊野茂夫 副委員長 花田勇朗 委員 杉村志朗 委員 平沼昌平 委員 平野隆雄 委員 溝部幸基	委員長 熊野茂夫 副委員長 花田勇朗 委員 杉村志朗 委員 平沼昌平 委員 平野隆雄 委員 溝部幸基
欠席委員	なし	
委員外議員	なし	
出席説明員	町 長 鳴海清春 副町長 高木憲一 農林課長 阿部合哉 水産商工課長 川花田雅昭 水産商工課参事 花木村雅文 建設課長 木石岡大志 保健福祉課長 坂口大志 住民生活課長 坂口大志 認定こども園福島保育所園長 金澤峰子	なし
議会事務局職員	議会事務局長 谷藤 悟 議会グループ次長 住吉 真由美 議会グループ主任 澤田 元氣	議会事務局長 谷藤 悟 議会グループ次長 住吉 真由美 議会グループ主任 澤田 元氣

[委員会意見]

調査事件 1 所管関係施設・事業等の町内視察について

(平成 27 年 10 月 30 日調査)

本委員会が所管する関係施設・事業等の課題や問題点を把握するための町内視察を実施しました。午前中に、多面的機能支払交付金事業、三岳団地遊具設置事業、林業専用道月崎線開設事業、町道吉野館崎線整備事業、吉岡総合センター整備事業、町道平和橋 1 号線整備事業、橋梁長寿命化事業、鏡山公園整備事業を視察調査し、その後検討会を行ったところであり、その結果における主な内容は次のとおりです。

【論点とした調査項目】

1. 農林課農林グループ

(1) 多面的機能支払交付金事業について

多面的機能支払交付金制度を活用しての公共施設である水路、農道等の維持補修等を行うことは、町の維持補修費の削減につながるため、今後も国庫交付金制度を大いに活用すべきと思います。

なお、制度内容の説明が不足していたので、事業の対象が個人所有の農用地畔等の草刈りや水路の泥上げ等まで対象となるのか、組織の経営内容、組織の構成員が作業員となった場合の日当の支払いなどは、どのようになっているのか、詳細な制度の内容を明示していただきたい。

(2) 林業専用道月崎線開設事業について

提出された資料の図面等が見づらく、分かりづらいので工夫を願いたい。

今後の資料作成に当たっては、事業場所や事業の目的、理由等を簡潔明瞭に記載願いたい。

(3) 地域おこし協力隊事業（農林部門）について

地域おこし協力隊の制度は、定住対策の一環であり、雇用期間終了後も営農により定住していくための研修や対策を進めていただきたい。

2. 水産商工課商工観光グループ

(1) 鏡山公園整備事業について

土俵周りの絨毯が破損しているので、今回の工事に合わせて改修の検討をしていただきたい。

(2) 地域おこし協力隊事業（観光部門）について

観光部門の協力隊については、平成27年10月から NPO 法人の設立に向けた取り組みを進めるとのことであるが、議会においてもこれまで NPO 法人の必要性を説き、その設立に向けた行政の支援を行うよう提言しています。難しい課題であるが、協力隊を中心に NPO 法人の設立に向け鋭意作業を進めていただきたい。

3. 建設課建設水道グループ（建設）

(1) 三岳団地遊具設置事業について

特になし

(2) 町道吉野館崎線整備事業について

高齢化が進む中で、町民自らが側溝等の清掃を行うことが難しくなっている状況から、計画的に整備後の側溝等の清掃を実施していただきたい。

(3) 町道平和橋1号線整備事業について

特になし

(4) 橋梁長寿命化事業について

特になし

4. 住民生活課支所グループ

(1) 吉岡総合センター整備事業について

吉岡総合センターの利活用については、未だに具体的なソフト展開が示されておらず憂慮致します。施設を有効活用するためには横断的な関係課の協議が必要だと思いき、吉岡総合センターを吉岡地区だけの施設としないためにも、全町的に利活用されるよう町内会や各種サークル等と協議・検討を早急に進めていただきたい。いずれにしても、町民の自主的な展開が肝要であり、第5次福島町総合計画の修正策定作業で取り組んでいただきたい。

また、説明の中で、NPO 法人や社会福祉協議会の事務所としての利用、人材育成の拠点施設としての利用を検討しているとのことでしたが、吉岡総合センターが吉岡地区の拠点施設として全町民に有効に利活用されるよう期待します。

5. 保健福祉課保健福祉グループ

(1) 吉岡温泉ゆとらぎ館の運営等について

吉岡温泉の雨漏りについては、何度も専門業者による調査を行い修繕しているが、未だ雨漏りが解消されていない。

一案として、地元建築業者においても後継者が育ってきている状況から、地元業者の後継者にチャンスを与える意味においても、雨漏りの原因調査を依頼しては如何か。

吉岡健康保養センターの改修、新築の方向性については、結論を出す時期に来ていると思うので、第5次総合計画の修正策定作業において維持管理経費などを比較検討し、方向性を示していただきたい。

6. 全般意見

公共事業は地元業者を育てる視点もあります。町の経済を考えてのJVも理解するが、今のような形でのJVが良いのか、業者のランク付けも含め再考する時期に来ていると考えます。

なお、提出された資料（特に図面）においては、誰が見ても場所や事業の目的等がわかるよう資料に書き込む形で調整していただきたい。

また、論点とした事項の中にも、第5次福島町総合計画に密接に関係する事業もあることから、本委員会の意見を十分に精査のうえ、関係者・地域住民とも協議しながら精力的に計画の策定を進めていただきたい。

調査事件 2 行政評価（事務事業評価）について

（平成 27 年 10 月 30 日調査）

町では、まちづくり基本条例第 20 条第 2 項の規定に基づき行政活動を点検し、改善を図るため、平成 26 年度一般会計決算による行政評価（事務事業評価）を実施し、議会基本条例第 10 条第 2 項の規定による決算説明資料として議会に提出しています。議会のチェック機能の強化と併せて翌年度の予算へ反映させることを目的に、それぞれの事務事業について議会としての評価を実施したものであり、評価方法及び結果は次のとおりです。

【評価方法】

議会による行政評価（事務事業評価）要綱に基づき、全議員が各事務事業の内容を総合的に判断した 4 段階評価を行い、「議会の最終評価」と総合的な説明を加えて「議会評価」としています。

なお、平成 26 年度までの評価方法は、全議員が行政と同様の評価シートにより点数化し、全議員の評価点数を平均化して、評価表に基づき行政と同様に A・B・C・D の 4 段階により決定していましたが、昨年度の両常任委員会において評価方法の見直しを検討し、平成 27 年度からは評価点数ではなく、行政で評価した内容と議員が認識している評価対象事業の内容を総合的に判断し、「◎」十分評価できる、「○」概ね評価できる、「△」やや不足、「▲」不足の 4 段階評価としたものです。

【評価内容】

（1）評価結果

評価した 18 件のうち、議会の最終評価及び説明は、下表のとおりです。

◆平成27年度 議会による行政評価（事務事業）結果表

事務事業名	町の評価内容						議会の評価	
	必要性 + 有効性	達成度 + 効果性	項目別 点数 評価	一次 評価	二次 評価	最終 評価	評価	説明
No.4 社会福祉費	7	4	A	A	A	A	○	引き続き高齢者や低所得者の生活安定と社会福祉業務全般について適切に執行願いたい。
No.5 戦没者追悼式事業費	5	2	A	A	A	A	○	遺族会とも協議のうえ、戦争のない平和への誓いを全町的に行う行事として新たな展開の検討が必要です。
No.6 社会福祉総務費	6	3	A	A	A	A	○	社会福祉業務全般について適切に執行願いたい。
No.7 安心生活創造事業費	8	4	A	A	A	A	○	見守り台帳登録者をさらに増やすよう努力願いたい。
No.8 介護予防・生活支援事業費	7	3	A	A	A	A	○	高齢者が増えたことから引き続き利用者サービスの充実に向けた検討が必要です。
No.9 予防費	7	3	A	A	A	A	○	特定検診の重要性を町民に周知するとともに、引き続き受診率アップに向けた検討が必要です。
No.10 子宮頸がん等ワクチン接種事業費	7	1	B	A	A	A	○	リスクを丁寧に説明したうえで、慎重に対応されたい。
No.11 老人保健費	7	2	A	A	A	A	○	リハビリ環境を充実するための検討が必要です。
No.12 女性特有のがん検診推進事業費	7	2	A	A	A	A	◎	更なる受診率の向上に期待します。
No.13 農業施設維持管理費	5	2	A	A	A	A	○	現状をきちんと確認したうえで、適切な維持管理に努めていただきたい。
No.14 民有林振興事業費	5	2	A	A	A	A	△	森林組合の経営状態に不安要素があり、森林整備の抜本的な検討が必要です。
No.15 漁港管理費	5	3	A	A	A	A	○	漁業者が安心して利用できるよう維持管理に努めていただきたい。
No.16 労働諸費	9	2	A	A	A	A	○	福島町職業援護相談所のあり方を含めて抜本的な事業の見直しが必要です。
No.17 商工振興費	7	2	A	A	A	A	○	プレミアム付商品券発行业務についての検証を示していただきたい。また、商工会経営改善普及事業の更なる推進に期待します。
No.18 地場産業開発研究事業費	6	1	B	B	B	B	△	活動内容（実績）が見えにくいので効果的な活動の展開に期待します。
No.19 青函トンネル記念館管理運営費	7	2	A	A	A	A	△	情報発信が不足している。イベントも含めて積極的な施設の活用を考え、斬新的な集客体制の整備に期待します。
No.20 道路維持費	7	4	A	A	A	A	○	最低補償制度（除排雪）の再検討と町民の除雪体制に対する協力意識の醸成が必要です。
No.21 住宅管理費	5	3	A	A	A	A	○	今後とも適切な管理運営に努められたい。